



発行所 東京片貝会 東京都港区芝公園2-11-4 電話 (433) 5925

新春の集い

お待ちしています

どなた様もお健やかに、お過ごしのことと存じます。五十七年の新年を迎えて、片貝人みんなで集いあい、互いの健康と発展とを祈念したいと思います。片貝の近況を語り合ひましょう、楽しみにしています。心からお出でをお待ち申しています。

少し趣向を変えて
昭和57年1月31日(日)

- 一、日時 1月31日(日) 東京タワー前集合 午前11時
 - 一、懇親会 増上寺大広間(西館二階) 午後1時~4時
 - 交通 国電一浜松町 都営地下鉄一大門、芝公園・御成門
 - 一、内容 東京タワー見学(記念写真(0時半頃)↓懇親会
- 恒例の福引は、今回趣向を変え、お年玉のほかに皆様の手作りの手芸品やご家庭にある日用品などをご寄付いただいたり、福引としたいと思ひます。当日会場へ持ちよってください。
- 始めての試みです。あくまでも気楽に自由に。どうぞよろしく
- 一、会費 三三〇〇円(折詰、果物、飲物、タワー、写真、福引)
- タワー見学に間に合わなかった方は、直接増上寺へお出で下さい。
- お願い——返信はがきを1月20日までにお送りください。

予 告

春の集い(第23回総会) 六月六日(日)

会場は未定、只今検討中。適当な会場が見つければ、例年と違つ場所を考えたい、と思ひます。

桜見物、奥湯河原温泉一泊旅行 四月十一、十二日

昨年の旅行が大へん好評でしたので、本年もぜひ、という趣向を添へて計画しました。日、月曜日

詳細は新年会にて説明します。当日より申込みを受け付けますので、よろしく。会費八〇〇〇円(予定)

ヤングの集い

名簿の整備ができた次第、企画の予定。

同級会だより

十三年会(大正13卒)

本年古稀を迎えて、花火を奉納のほか、母校(小中)へ演壇、マインなどを寄贈した。翌十一日は湯沢温泉で懇親会を開いた。四十名が参加して、長寿を互いに誓ひ合った。

昭生会(昭2卒)

十月四、五日水上温泉で。三五名(内東京方面から十名)二年後にくる古稀の会の計画を話しあひ盛会であった。

同和会(昭3卒)

群馬の磯部温泉で、新緑を鑑賞して、友情を深めた。約四十名が出席、東京よりは七名。盛会であった。六月六・七日

和光会(昭6卒)

青森で同級会を、参加者四十一名(内東京より十名)紅葉を兼ねて、一同山を下った。

竹馬会(昭9卒)

選慶を迎え、同級生の慰霊祭や花火の打掛けを盛大に挙げた。恩師を一人お招きして懇親会を、参加者八十三名であった。

二六會會会(昭13卒)

五十五才のお祝いを浅原神社で昼のスターマンを奉納した。十日は美好亭で懇親会を開いた。出席者85名の盛況であった。

和風会(昭17卒)

恒例の同級会を佐渡の相川で。新潟港から佐渡へ渡つて観光旅行を兼ねた。二十三名参加(内東京より八名)。六月六、七日。

また有志で、奥見方面へ群狩り旅行もしているという。

ゆくて会(昭18卒)

二月十五日に東京プロックの会を升本で開催した。片貝からも四名参加、また二月二十七日、八日には総会を水上温泉で開催した。

秋祭りには五十才のお祝いの花火を掲げること、仁友の慰霊祭をとり行うことなどを決断した。

和進級友会(昭19卒)

本年五十才を迎えたので、秋祭りを期して、盛大な同級会が持たれた。参加者は百十五名の多数であった。(この年度は四学級)恩師も七名お招きした。花火の打ち揚げ、小、中校への寄附など多彩十一日には、浄照寺で慰霊祭をしたあと、ふるさと会館で懇親会を開き、又の再会を期して敬会した。

青年部打合わせ 7月5日

総会で提案された、ふるさと夏季学校の開設に伴つて、片貝会の対応について種々協議した。

会場は藤塚 樽さん宅で、黒崎部長、浅田、大塚、藤我副部長のほか佐藤会長が出席した。

新潟県人会納涼の夕 8月9日

目黒八芳園で、夏季学校参加についての具体的な連絡を打合わせるため、この催しの参加を兼ねて実施した。

会長、部長、藤塚、大塚副部長四名が参加した。

ふるさと夏期学校

東京小千谷会総会 5月10日

ご案内をいただいたが、当日は総会準備の役員会を、前に計画してあったので、出席できなかった。

縁友会(昭22卒)

平和島温泉にて、一面参照

6月7日

22回総会

青年部打合わせ

8月16・19日

ふるさと会館を中心。三回新年会準備の役員会

11月1日

港区芝公園福祉会館にて。

会期、催しの内容等について相談したほか、会全体の運営についてもいろいろ話し合った。出席者十四名。

人事

会計役員山口武一郎さんは胸部手術のため、川崎病院へ入院中であつたが、健康を回復されて、六月二十四日無事退院された。

理事大矢福次さんの奥様(広井さんの妹)は、かねて療養中のごころ、その効なく八月十七日に逝去された。

青年副部長浅田好司さんは、会のために日頃身体的に力いたただいていたが、十月二十九日急逝された四十四才の若さであつた。会からは会長が弔意を表した。共に深く哀悼の意を表します。

8月16・19日

ふるさと会館を中心。三回新年会準備の役員会

11月1日

港区芝公園福祉会館にて。

会期、催しの内容等について相談したほか、会全体の運営についてもいろいろ話し合った。出席者十四名。

人事

会計役員山口武一郎さんは胸部手術のため、川崎病院へ入院中であつたが、健康を回復されて、六月二十四日無事退院された。

理事大矢福次さんの奥様(広井さんの妹)は、かねて療養中のごころ、その効なく八月十七日に逝去された。

青年副部長浅田好司さんは、会のために日頃身体的に力いたただいていたが、十月二十九日急逝された四十四才の若さであつた。会からは会長が弔意を表した。共に深く哀悼の意を表します。

十月三、四日湯沢温泉で、五十三名(内東京より十三名)が参加した。恩師の吉田、白井両先生をお招きした。好天に恵まれて、河原でのバーベキューがおいしかったとか。

同心会(昭26卒)

新緑の芽生え始めた四月四、五日に水上温泉で同級会が開かれた全部で38名の出席、内東京方面から11名が参加し、盛会であった。

福寿会(昭48卒) 成人の祝い

水遠会(昭37卒) 三十三才厄払

若杉会(昭27卒) 四十二才厄払

秋祭りには五十才のお祝いの花火を掲げること、仁友の慰霊祭をとり行うことなどを決断した。

会の動き

春の集い (第22回総会)

楽しく賑やかに

56・6・7

平和島温泉で

初夏のさわやかな緑が、太陽に美しく輝いている。朝からうきうきと、心が湧いてくる。今年も平和島温泉で総会を開くことになった。22回目である。いつも開会準備に追われ通しなので、今度は開館前に会場につきまちはゆつくりと温泉につかり、英気を貯えた。それから準備にとりかかる。

第22回総会、

とどこおりなくやがて、皆さんは続々と会場に参集される。定刻一時を十分ほど遅れて開会となった。司会は、黒崎正さんがつとめてくださるみんなで「ふるさと」を歌う。



小学校長田口信

故郷の近況に耳傾けて 来賓の皆様からは片貝の懐しい状況、発展ぶりに一同傾聴する。協議会長の吉井進吾氏からは上水道や道路の整備してきたこと、今後は都市計画の推進、下水道整備、魚沼線の廃止問題について、その見通しを話された。中学校長林鉄雄先生より、体育館が拡張されたこと、版画による美術教育に成果があったこと。

まず、前年度の事業報告の後、会計報告に移る。本年から繰越金のうち、二十万円を別途積立金として、後日の事業資金として確保させていたことを、承認していただいた。今後、余裕が出れば、更に増額も考えていきたいところ。会の活動を活発にするためにはどうしても、諸経費、交際費がかさみ勝ちとなる。その舵とりがなかなかむづかしい。

先生からは、屋内体育館の改装、文部省から道徳教育の研究校に指定されたことについて話された。

市議の本田善治さんからは、この秋祭りについての企画や、片貝の花火の歴史の一端を、今回始めてご出席くださった浄聖寺様からは、宗教者の立場から片貝の人達の人情のこまやかさと更に積極性を望むこと、東京に活躍中の私共に対しても、いろいろ激励された。

最後に公民館長の吉田一雄先生から、夏休みに小学生対象のふるさと学校開設(三面参照)に関する提案があった。

終りに、小中学校の校歌を合唱して、総会は順調に終了した。

飲み、語り、交歓の渦 懇親会は松下利夫さんの進行、温泉提供の歌と踊りが終わると、会員の皆さんがつきつきと、楽しい歌や踊りが披露され、会場内は湧き上がった。山田利雄さんが坂東流同門の美女四人とともに、妙技を見せていただいた。又平石マサさんはお友達といっしょに、三弦に合せての歌はずばりだった。又山賀豊司さんの三味線と歌。そのほかたくさんの方々が披露された。

物産展賑わう

今年も郷里の米菓や羊かんなど懐しい数々を、定価より安く販売して、好評をいただいた。会も賑わった頃、しやぎりの演奏、木遣り唄の大会唱で、いつ果てることもなかった楽しい集いも幕となった。またの再会を約しながら。

当日の来会者

(八七名 敬称略)

来賓

協議会長 吉井進吾
小学校長 田口信
中学校長 林鉄雄
市会議員 本田善治
浄照寺住職 小林文雄
公民館長 吉田一雄
新潟県人会 入倉忠

会員

●大正5、15年卒
吉原周治、松井平助、広井三代次
丸山松江、錦織ツタ、石上リヤウ
相崎尚次、神林徳次、安部盛治
大矢福次、佐藤量八、横山秀雄
大塚たけ、星野三作、三重堀繁蔵
●昭和2、10年卒
相崎勇次、山田せじ、浅田喜八郎
松井重治、小川茂雄、日下部政子
山田雅子、小林敏司、小野塚マツ
吉井武二、山口三郎、相崎善次郎
浅田鉄二、小林政次、黒崎米太郎
小宮竹次、馬場さい、黒崎敬五郎
勝又 功、田口たづ、小宮竹次
黒崎孝造、安達幸一、芝三四司
大矢幸治、平石フミ(筧川ひろ)
佐藤彦一、奥田佳子、武藤睦子
●昭和11、20年卒
黒崎晋吉、山口福次、高橋四郎



小宮秀夫、安達保治、太刀川善蔵
渡田鉄夫、山賀豊司、山口吉五郎
関 亨子、松下利夫、五十嵐忠作
山田利雄、佐藤道雄、小宮幸雄
吉井 寿、浅田栄三、田口とう
●昭和21、30年卒
相崎富代、安達和三、山岸慶昭
新野次郎、藤塚真澄、小林愛子
黒崎 正、相崎達一、本田幾雄
小野塚茂、石川春子、本田正弘
●昭和31、32年卒
藤塚 悟、大塚国夫、重原文明
諸我時夫、吉井信三
ご芳名披露
ご出席の来賓各位のほか、会員
錦織ツタ、広井三代次、三重堀繁
蔵、浅田栄三、小宮竹次、高野三
郎の六氏及び小宮製菓よりご芳志
をいただきました。
総会には出席されませんでした
が、山口盛作、香沢とせ、鶴田園
茂、西山信男、太刀川太郎の五氏
からも、ご寄贈を賜りました。
記して、厚くお礼申し上げます。
(石写真、公民館長吉田先生)

米穀販売

板橋区成増2-33-1

石黒佐忠太 (昭4卒・池津)
(930-5732)

渡 辺

クリーニング店

栃木市日の出町6-5

渡 辺イツ (大13卒・町裏)
(安達) (0282-22-3581)

奥湯河原温泉

青 巒 荘

この温泉を開発した高知尾健次郎氏は八島の出身(旧姓安達) 会員親迎

広井三代次 (大10卒・二の町)
旅館 (0465-63-3111)
自宅 (" 62-5539)

この人

勝又 功さん(昭6卒)
池津の生まれ、小学校を卒業すると、東京の叔父の許にひきこられて、上級校へ進学した。卒業後は国税局に就職して、専ら税務行政に力を尽された。
戦後、税務署の仕事を離れて、税理士として独立開業、現在に至っている。片貝出身で、東京で税理士をしている方は、山口剛平、

諸我時夫さんなどがあるが、勝又さんは正に草分け先輩ということになる。もうすぐ三十年となる。お父さんは石黒忠篤氏(農相)と親交があったという。堂々たる体格で、精力的にこの業務に励んでおられる。
大塚正博先生
いわゆる仙桃酒の大塚本家の方

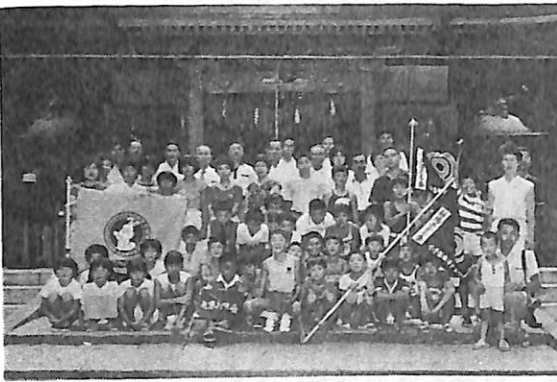
楽しかった 夏休みふるさと学校

はじめての企画(8月16~19日)

来年もぜひ!

開校式はお盆も終りに近い、八月十六日の午後二時、浅原神社の社殿前で行われた。

この企画は、ふるさと会館の吉田先生から提案されたのを片貝会が全面的に協賛して実現した。

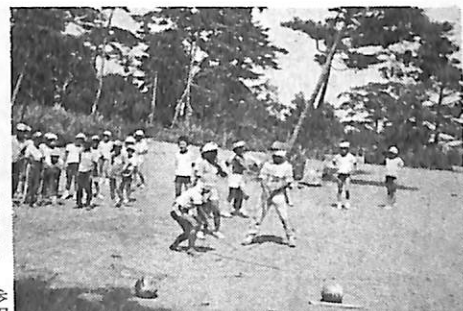


参加条件を三年以上の小学生とし、会員の父母に呼びかけたところ、十一名が参加してくれた。その中九名は、すでに募参に行っており、当日上野から出発したのは二名であった。佐藤会長が引率して、小千谷駅に着く。吉田先生が車で迎えにきて下さった。定刻になると、先着の九名及び片貝小学校の児童達が三十名ほど町内の子ども会の旗を翻えながら集ってきた。

いま、大宮市の益裁町で余生を送っておられる。
戦後、片貝に定時制高校ができた時、英語と生物の先生をしてもらった。専門の学問のほかに、音楽の造詣が深く、音楽研究会を作った。若い人達に深い感銘と影響を与えた。しばしばレコード鑑賞会を開かれた。今でも、その頃の教え子やグループの人達は、時折先生を訪ねているという。
片貝会の際に、一度お招きしたい、という声もある。

協議会長さん、校長先生、館長さんの挨拶のあと、町の児童からは歓迎のことば、その後、片貝会長と参加児童の代表黒崎和明君が、よろしくと挨拶して開校式は終了。記念写真ののち宿舎のふるさと会館。
境内では、昨夜からの盆踊りが今夜は大詰の仮装踊り大会となった。東京の子ども達も、これに参加することになった。町の子も達から手をとって、親切に踊りを教えてもらった。
いろいろのグループが、工夫をこらしての仮装踊りの人達にまじって、東京の子ども達もなれぬ手つきで、楽しげに興じていた。
ひと足早目にひき上げ、今日の感想を記録して、ふるさと会館での翌一夜を送った。

翌朝は六時に起床、町の子も達と、学校の校庭でラジオ体操、これは三日間休まず続けられた。食事は小学校の給食係の本田さんと、藤田先生が心をこめて調理してくださる。変化に富んだ献立と、新鮮な野菜と漬物が格別の味であった。



花火が揚り、ナイヤガラ滝でこの楽しい行事も幕と落ちた。
この花火はすべて本田善治氏の奇贈によるものだった。十九日はいよいよ最後の日である。朝からの雨のため、館内で閉校式を行った。
東京へ帰る者、もう少し郷里に泊る者、四日間をみんな楽しんで子ども達は、名残りを惜んで、学校の幕を閉じた。
一緒に泊まってくれた子ども達のおかげに、毎日自宅から参加してくれた子ども十数名あり、行事はいつも賑わい一杯だった。
四日間寝食を共にして、親身も及ばぬお世話をいただいた校長先生、本田(片貝出身)、前田、斎藤、羽藤、藤田先生に心から感謝申しあげます。夏休みを返上までして、面倒みて下さった。
PTA会長の安達良一氏、小宮、山村、大矢、砂山さん、その他多くの方々の、暖かい歓迎とお世話をいただきました。お礼の気持は、筆紙に尽し難いものがあります。

十七日も好天に恵まれ、城址公園までハイキング。すばらしい眺望を眺めながら、飯ごうでご飯を炊き、ライスカレーを作って食べた。忽ちご飯もカレーも空っぽになった。満腹のあとは、みんなが西瓜割り、いたいた西瓜のうまかったこと。帰りは植物採集、この草花で夜は焚火作りをしたり、ゲームをして楽しんだ。
今夜から、町の子も十八人と、いっしょに枕を並べて、会館で夢を結んだ。
十八日は午前中、神社の広場でゲームやらソフトボールの試合。この指導には、町の体育指導員の方が、お世話下さった。午後、新野製菓と花火工場を見学する。町の人も滅多に機会がないのに、とても参考になった。又新野製菓では、お土産までいただいた。帰ってきて、竹とんぼ作り。
夜はキャンプファイヤー。火柱を囲んで、みんなが手を繋ぎ、幾つも幾つも歌を合唱する。寸劇をする班もある。やがて、フェナーしが近づいてきた。空に十数発の



奥瀬 クリーニング店
町田市中町4-5-3
奥瀬 洋子 (昭28卒・一の町)
(浅田) (0427-23-5727)

各種精肉
東村山市萩山町4-2-42
本田 繁男 (昭27卒・屋敷)
自宅 (0423-94-2035)
店 (" 3490)

新鮮美味 豆腐製造販売
埼玉県上福岡市上福岡4-12-7
高橋 一郎 (昭26卒・山屋)
(0492-61-4577)

今年も昼の三尺玉上る 全国で紹介された秋祭り

今年も八日の前後祭の民謡流しで、秋祭りの火ぶたは切っておとされた。町民も、遠くからの日のために掃蕩してきた人達も、一様に心をそぞろである。

九日の朝しとしと降雨となった。簡ひきの行事に参加した人達は濡れたが、気になるほどの降りではなかった。午後から雨もやみ、みんなはほっと安堵する。

夜になると、天を轟かせて、火花が打ち揚げられた。十日の朝は小学生のすがすがしい鼓笛隊の音楽が、町に鳴りひびく。午後からは恒例の奉納相撲、神社の森が歓声でこたえました。本年も会から、

五人技きの懸賞を奉納した。一時に昼の三尺玉が、響音とともに閉く。昨年に続いての打揚げ本邦無一を誇るもの。夜の分を含めて、昨年と同じ三発となった。

神社前では奉納木遣りがどよもす、舞殿の音楽演奏も呼応して、神社の森はいやが上にも盛り上った。伝統のしやきりが次々と鳴りわたって、終夜賑わった。

寒況は県内の放送局から、テレビで毎年放映されているが、本年はNHKの「ふるさとテレパム」番組の中で、十分間全国放送された。九月十七日。また、十九日には、TBSラジオで、二時間

ふるさとこの頃

町づくり計画

片貝地域が今度県の都市計画の指定を受けた。町の快適な環境づくりを推進しようというもの。

下水道整備、施設の充実など課題はたくさんある。魚沼線廃止に伴う対策も、急務となっている。

町内の各方面を代表される二十三名が委員となって、踏足した。

総合文化展

昨日に続き、第2回。十一月一日にわたって実況放送された。お聞きになった方も、多かったことと思います。

東京片貝会会計報告 (自昭和55. 4. 1 至昭和56. 3. 31)

収入 ¥1,915,988	支出 ¥1,915,988
前年度繰越高 604,555	総会費 463,960
年会費(480名) 474,100	料理、会場費 372,600
総会費 381,500	米米来米 21,600
新年会費 270,000	記念品 18,200
新寄付(27) 165,200	記念車 50,000
名簿送料 6,100	ボ 1,560
銀行利息 13,103	新年会 287,950
雑収入 1,430	料理・飲物 169,300
	米米来米 48,150
	福謝礼 61,000
	雑費 7,000
	諸費(9) 51,470
	印刷費(報告・はがき) 42,960
	会場見通費 3,700
	交通通信費(はがき・切手) 26,820
	通信費(はがき・切手) 4,390
	報告(21・22号) 205,953
	封筒印刷補助 94,140
	交際費(県人会、浅原他) 6,030
	事務処理費 98,020
	次年度繰越高 35,470
	別途積立 9,550
	事務処理費 24,000
	次年度繰越高 360,575
	別途積立 200,000

昭和56年6月7日
上記のとおり報告いたします。

会計部長 黒崎 孝造
副部長 山口 武一郎

上記は適正且つ正確であることを認めます。

会計監査 小川 茂雄
大矢 光治
高橋 四郎



緑陰読書会

夏休みの行事として、本年も浅原神社の相撲場を中心に実施された。図書は小千谷図書館から提供されたもの。多数の児童、生徒や町民が、熱心に読書を楽んだ。

(7月31日)なお、ふるさと会館の研修室に、図書が用意されて、町民に利用されている。市の図書館の好意によるものという。



秋日の照映える仲使山で、藝の先生方の遺族を招いて行われた。町の方と小、中学生及び片貝会長、安達電作氏など多数の出席があった。法養の後、浅田壮太郎先生の記念講演があり、墓前で直らひの後、閉会した。(10月7日)

敬老会
今年も体育の日に、七十才以上の方々を招待して、小学校の屋内運動場で開かれた。三百五十名の出席があつて、楽しい賑わいであつた。喜寿で市長から金杯を贈られた人が、三十一名。

なお、片貝には米寿の人が五名九才以上が二名。古稀以上は全部で五十一名とのことである。

スポーツの秋

市民体育祭
市内の中・高校生、一般が毎年行なっているもの。バスケットでは中学生が、バレーボールでは、女子と一般が優勝した、さすが球技の伝統を誇る片貝の実力を、遺憾なく発揮した。(10月10・11日)

町民運動会
各町対抗で、大変な盛り上がりを見せた。中学校グラウンドで、秋日和に恵まれ盛会だった。

成績は四之町が五年ぶりで優勝続いて、三之町、一之町の順であった。(10月18日)

駅伝マラソン大会
昨年に続いて二回目、コースは22号会報で紹介した。11・8kmを五名一組で走るもの。

母校の動き

小学生も参加して、二十七チームが走り、町中が湧きたった。中学チームが一、三位。五之町も二位と好成績であった。(1月1日)

中学校の体育館は、拡張されて立派になったが、小学校のもう一つの体育館は、古いままである。

これは昭和四年に、工兵大隊の兵舎を買ひとって、体育館にしたもので、五十余年の長い間、お世話になったものである。この度改築されることになった。

七月十七日にお別れ会が催された。児童会が中心になって、作文朗読やゲーム大会など。又先輩として丸山良平、浅田壮太郎両氏が思い出話をされた。八月十七日にとりこわされて、三月には新しい体育館に生まれ変わるという。

また、十一月一日には、小中学校で展覧会が行われた。

あとがき

ふるさとの近況と、会の動きを精一杯盛りこんで、会報を編集しました。会報についてのご感想をぜひお寄せ下さい。

すばらしい新年を、どうぞ。

なお同和会(大11卒)の有志五名が、去る11月25日に恩師の吉沢実先生を偲んで、親交の集いもたれた。お知らせを得て追記。